




活動プログラム	No.08	里山整備	
期待される効果	  		
プログラム概要	美方高原の周辺にも、昔から人がたくさん住んでおり、森の木々を使って生活をしていました。そんな身近な山林を、里山と呼びます。里山は人の手で手入れをしなければ、不健康になってしまいます。自分たちの手で手入れし、楽しく遊べる場所や道を作り、自然環境の事を考える機会にしてみましょう。		
対象	小学生以上	人数	90人(活動場所は分かれる場合あり)
時期	5月～11月中旬	場所	施設周辺の山林
金額	なし	スタッフ数	40人程度に1人

準備物	団体ごと	救急用品、虫よけスプレー
	服装 個人装備	長袖・長ズボン、帽子、履きなれた靴、汗拭きタオル、軍手、防寒着 水筒、カップ(上下セパレート)
美方高原で レンタル可能な物		クワ、鎌、スコップやシャベル、のこぎり等の道具

#### 活動のタイムスケジュール(例)

時間	運営	安全上のポイント
9:00	屋根付き広場集合 長靴事前貸出 挨拶、道具の貸出 出発	トイレ、服装、持ち物チェック
9:30	整備場所到着 整備方法と安全について 整備開始	危険箇所、道具の使用方法をよく聞いておく 水分補給や暑さ寒さ対策は適宜
11:15	整備終了、途中経過の発表	
12:00	昼食	
13:00	玄関前集合、出発 整備の続きとあそび場作り	気のゆるみで危険な行動につながるので注意
15:00	整備した場所やあそび場の紹介 森あそび ふりかえり 屋根付き広場集合、終わりの挨拶 道具の返却、長靴洗い	
16:30	解散	体調確認

#### 補足ポイント

- 枯れ木や下草の整備、道作り、階段づくりなど、整備だけの半日活动も可能です
- 整備した際に集めた枯れ木で野外炊事をしたり、クラフトをすることもできます
- 整備した場所でのあそび場作りを翌日一日がかりで行ったり、基地作りをすることも可能です
- ナイトハイクで訪れたり、シート等で屋根を作り寝袋で1泊して里山の自然を感じることができます

活動 プログラム	No.08	里山整備
-------------	-------	------

予期されるリスク	リスクに対する対応
転倒によるケガ	フィールドでは走らず、軍手をして、手で支えながら歩く
ノコギリの取り扱いによるリスク	両手軍手着用。作業中以外は必ず鞘に収めることを徹底させる。
枯れ枝や掛かり枝の落下	事前にエリアを下見し、危険な枯れ枝を除去
熱中症、脱水症状	塩分や十分な水分を準備するよう伝える。服装も調節を促し、日陰での休憩をとらせる。肌を露出させず、日焼け止めの使用を促す。
ハチ、ヘビとの遭遇	ハチやヘビとの遭遇した場合の対応を伝えておく。また林業体験場までのルート以外には入らせない。沿道のハチの巣の駆除。
天候不良	当日の天候や予測を確認し、著しく悪化する場合はプログラムの時間変更、もしくは中止する。
その他のケガ、体調不良	救急バックを携帯し、応急手当の準備をする。事前の体調調査、当日の確認を行い、バックアップ体制を整えておく。

事前点検・準備事項
枯れ枝、掛かり枝はないか。
ハチの巣やヘビの痕跡などがないか。
地面のぬかるみがひどくはないか。
エリアの広さは参加人数に合っているか。(過密状態や目が届かない等)
天候の情報を確認して、適切な対応をしたか。
参加者の年齢、人数、スタッフ数、体調面などの情報は入っているか。
運営方法やタイムスケジュールは明確で共有されているか。
施設準備物は使用可能な状態か。または数は揃っているか。
参加者もしくは団体への持ち物の伝達は行ったか。

活動時のインストラクション (必須事項)
整備エリアは足場が悪い箇所もあるので走ったり、ジャンプしない。(けが予防のため)
常に軍手を装着しておく。
道具の使い方を目の前で見せ、危険な使い方理解させる。とくに人が集まって作業をする場合は道具を使用したり、材料を運んだりする際、衝突をしないように気をつける。
水分補給や休憩等声掛けし、アドバイスをする。
ノコギリを取り扱う際には両手軍手着用。作業中以外は必ず鞘に収めることを徹底させる。
ハチ、ヘビと遭遇した場合は、刺激せず距離をとること。